

CASBEE京都-新築(2011年版)
【仮称】エスリード唐橋川久保町新築工事

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル									
				3.0	0.50	3.0	0.50	2.9	
				3.0	1.00	3.0	0.50		
							0.50		
							0.50		
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
				3.0	0.50	2.8	0.50	2.9	
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
				2.0	0.50	3.0	0.50	2.4	
				2.0	1.00	3.0	1.00		
3 外皮性能									
4 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
3.0 0.20 2.0 0.20									
2.3 空調方式									
1.0 0.30 2.0 0.30									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
	●自然	A(全国版準用)		1.8	0.30	3.0	0.50	2.8	
				1.0	0.60	3.0	0.50		
							0.50		
2 方位別開口									
							0.30	2.8	
3 昼光利用設備									
	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策									
1 眩光対策									
				1.0	0.30	3.0	0.50	2.8	
2 昼光制御									
	●自然	B(推奨内容)		1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度									
3.0 0.15 - -									
3.4 照明制御									
3.0 0.25 - -									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
			F☆☆☆☆を採用	3.0	0.60	4.0	0.63	3.3	
				3.0	1.00	4.0	1.00		
							-		
4.2 換気									
1 換気量									
				3.0	0.40	2.3	0.38	3.3	
2 自然換気性能									
	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮									
				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
- - - -									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
			ケイオプティコムを採用	3.0	0.40	-	-	2.4	
2 高度情報通信設備対応									
							-		
3 バリアフリー計画									
	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	2.5	1.00		
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
	●とも	C(独自加点)		1.0	0.30	4.0	0.50	2.4	
2 リフレッシュスペース									
	●とも	D(独自基準)		1.0	1.00	1.0	0.50		
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
			倉庫やごみ置場を確保している	3.0	0.30	-	-	2.4	
2 維持管理用機能の確保									
				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1 耐震性									
				3.0	0.48	-	-	3.1	
2 免震・制振性能									
				3.0	0.80	-	-		
				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
	●大切	A(全国版準用)	劣化対策等級3を取得	4.1	0.33	-	-	3.1	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
			タイルを使用	5.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
				3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
				3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
				3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔									
			耐用年数が高い商品を使用	4.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性					1.8	0.19		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20		-	
3	電気設備				1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29		2.7	1.00
3.1 空間のゆとり					2.0	-	2.4	0.50	
1	階高のゆとり						2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	2.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	京都市景観条例に認定されている	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	3.2
LR1 エネルギー					-	0.40		-	3.8
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電を使用	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化					4.8	0.40		-	4.8
集住住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!			-	
集住住宅の評価					4.8			-	
4 効率的運用								-	
4.1	モニタリング							-	
4.2	運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	2.8
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無							-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63		-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材を一部使用(持続可能な森林から産出された木材)	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.3	0.22		-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.0	0.68		-	
1	消火剤				-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)				2.0	1.00		-	
3	冷媒				-	-		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	2.8
1 地球温暖化への配慮					4.3	0.33		-	4.3
2 地域環境への配慮					1.4	0.33		-	1.4
2.1 大気汚染防止					-	-		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.67		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.3	0.33		-	
1	雨水排水負荷低減				-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音				3.0	1.00		-	
2	振動				-	-		-	
3	悪臭				-	-		-	
3.2 風害、日照障害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制							-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる